

弘光舎100年の歩み

Electric

100 Years of Power , Beauty and Soul

弘光舎100年の歩み

Dreams



株式会社 弘光舎

株式会社 弘光舎

Electric

100 Years of Power , Beauty and Soul

弘光舎100年の歩み

Dreams



小野 義明

代表取締役社長

小野 泰男

代表取締役会長

創業 100 周年を迎えて

お蔭様で弘光舎は、2014年5月25日をもって創業100周年を迎えることが出来ました。

これは一重に長年に亘る多くのお客様からのご愛顧、ご支援の賜物であり、また、同時に会社の創業時から支えて頂いた諸先輩方のご指導によるもので、加えて全社員の協力があったればこそ、輝かしい創業100周年を迎えることが出来ましたことに対しまして、衷心より厚く感謝申し上げます。

また、これを機にこの度100周年誌を本編及び別冊と編成して発行する運びとなりました。

本編では、弘光舎が大垣市に呱呱の声を上げました大正時代から、昭和初期、そして戦後復興の中からの立ち上がり、迎えた平成26年（2014年）までの歩みを纏めております。無事到着した100年ではありますが、創業からの歩みは決して平坦なものではありませんでした。いくたびかの苦難の時代を乗り越え、至りました今日、社会状況や産業構造が大きく変化を続けています。今後も続くであろう変化に柔軟に対応していく必要があり、その対応には役員一同をはじめとし、細心の心構えで進んで参る覚悟であります。

そして別冊では、やや趣を変え、大正・昭和・平成の三代にわたる「夢を追い続けた人生」別称「Electric Dreams」と題したもので、弘光舎の略歴から小野会長が歩んだ道の一部を含めて紹介することとしました。読み返しますと失笑の面もありますが、積み重ねてきた社歴を大切に…次なる50年・100年に向けて更なる成長を目指します。何卒相変わりがせぬご指導、ご鞭撻を賜わります様お願い申し上げます、ごあいさつと致します。

代表取締役会長 小野 泰男

代表取締役社長 小野 義明

CONTENTS

ごあいさつ	第1編：施工実績
代表取締役会長 小野 泰男 2	Category 1..... 22
代表取締役社長 小野 義明	ホテル・流通ビル・店舗・ゴルフ場
社是・社章 5	Category 2..... 24
会社概要 6	企業・工場
役員・組織図..... 7	Category 3..... 26
表彰 8	学校・公共施設・福祉施設
企業理念	Category 4..... 32
技術の翼 10	給水施設・ポンプ場・排水機・し尿処理場
私たちは挑戦を続けます。	Category 5..... 34
未来に笑顔をつなげるために。	太陽光発電・EV 充電スタンド
環境との共生 12	第2編：100年のあゆみ
次の世代のために、今できること。	第1章：明治・大正から戦前戦中時代 38
持続可能な社会の実現をめざして。	(明治・大正～昭和20年)
地域の絆 14	第2章：昭和後期から高度経済成長期 40
今日までも、明日からもずっと。	(昭和21年～昭和50年)
地域とともに発展し続けるために。	第3章：昭和後期から平成へ 44
	(昭和51年～平成11年)
特別企画・座談会	第4章：21世紀への挑戦、そして未来へ 54
会長・社長×OB社員 16	(平成12年～平成25年)
弘光舎の軌跡を語る	あとがきに代えて 60
～卓越した技術、誠実な施工で100年～	

凡例

- 本書の収録期限は、明治37年5月の当社の創業から平成26年3月末までを原則とした。
- 歴史的記述に従い、個人・企業・団体を通じて敬称・敬語は省略した。
- 用事用語は原則として常用漢字・現代仮名づかい・現代送り仮名を用いたが、固有名詞は必ずしもこれにこだわらなかった。
- 数字はすべてアラビア数字とし、読みやすくするために、万・億などの漢字を併用した。

社是・社章

社 是

1. 優秀な設備工事を通じて社会に貢献する。
1. 常に健康的で明るく規律ある職場をつくり、作業の安全確保に努める。
1. 技術の練磨と積極的な営業努力によって、豊かな会社を築き上げる。

社 章



弘光舎の社章は、電気設備工事で事業を起こした歴史にふさわしく、電気抵抗の大きさの単位である「オーム」をモチーフとして制作しています。「オーム」はギリシャ文字単体で読むと、「究極」を表す「オメガ」であることから、工事精度を最大限追求し、お客様に必要とされる存在であり続けたいという願いも込めました。この社章を掲げ、お客様との信頼関係を第一に事業活動を進めていく当社の意志を、社内外に表明しています。

会社概要

役員・組織図



商号：株式会社 弘光舎
 創業：1914年（大正3年）5月25日
 株式会社設立：1947年（昭和22年）4月16日
 資本金：¥90,000,000
 従業員数：50名

事業所

本社：岐阜県大垣市神田町1丁目1番地
 名古屋支店：愛知県名古屋市西区浅間二丁目5番11号
 各務原支店：岐阜県各務原市大野町1丁目151番地

●営業品目（工事部門）

変電所設備工事、電気設備工事、上下水道電気計装工事
 空調設備工事、給排水衛生設備工事、消防施設工事
 電気通信計装設備工事、公害処理施設工事、機械器具設備工事
 光ファイバー施設工事、ゴルフ場管理システム

●建設業許可

許可番号：国土交通大臣許可（特一般-24）第1654号



許可年月日：平成24年9月5日

●電気工事業届出

届出番号：経済産業局長届出 第03001号
 届出年月日：平成3年6月29日



代表取締役会長
小野 泰男



代表取締役社長
小野 義明



専務取締役（工事本部長）
松岡 一雄



常務取締役（名古屋支店長）
小野 充雄



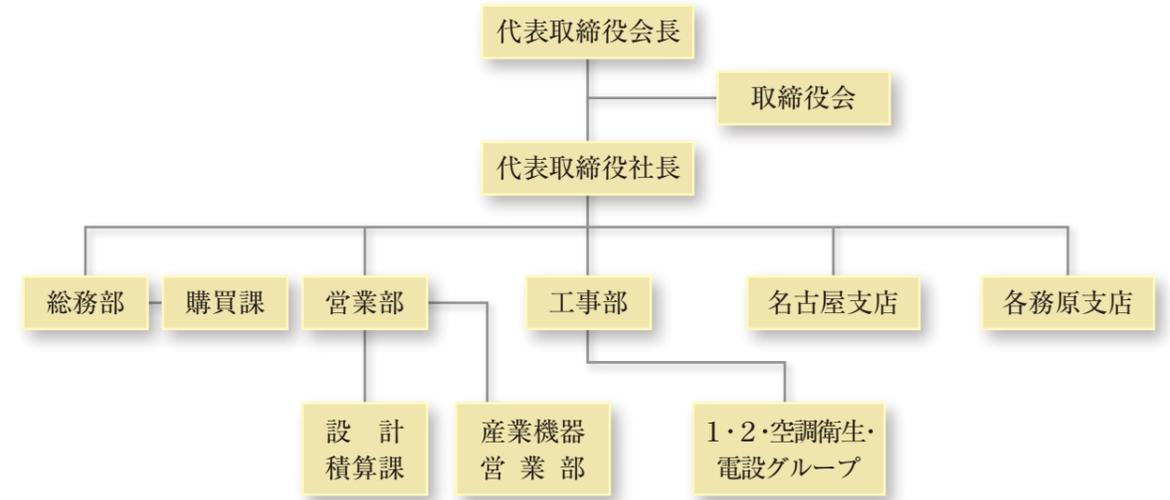
取締役（総務部長）
野原 省次



監査役
佐部利 茂



監査役
若園 知明



表彰



表彰 (昭和34年11月26日)



表彰 (昭和55年2月21日)



表彰 (平成15年5月3日)



褒状 (昭和48年10月31日)



感謝状 (平成26年3月28日)



表彰 (平成7年5月31日)



褒状 (昭和55年7月30日)



顕彰 (平成9年5月30日)



表彰 (平成22年12月1日)

技術の翼



私たちは挑戦を続けます。
未来に笑顔をつなげるために。

弘光舎の創業者・小野弥六は、郷土愛にあふれた事業家でした。地域と企業の発展を同軸でとらえるという考えの強かった弥六は、配電工事事業を通じて大垣の地における電灯の普及に邁進。現在の弘光舎の礎を築いたのです。その共存共栄の理念とチャレンジ精神は2代目の小野泰男、3代目の小野義明にも引き継がれ、時代とともに新しい技術とノウハウを培いながら成長を続けてまいりました。そんな私たちが今、取り組んでいるのが、環境分野において当社の成長機会を見出すこと。その成長を糧に、さらに技術を磨いていくこと。そして、より豊かで持続可能な社会の実現と、地域および当社の発展を両立させることをめざしています。

これからも、私たちの挑戦は続きます。



庁舎や工場、病院のように大規模な施設では、配電盤や制御盤などを絡めた複雑な電気設備が必要となります。弘光舎はそういった設備にも豊富な実績を持つスペシャリスト。用途や設置条件に合わせた最適なシステムを提供できる技術力により、お客様の信頼に応えています。



インフラ整備という側面から地域の発展に貢献し続ける当社の事業の中で、大きな比率を占めるのが計装設備工事事業です。とりわけ上水道の計装設備の設計・施工・保守工事は、地域において高い受注シェアを獲得。今後も技術力を高めながら、存在感を発揮していく考えです。



太陽光発電の普及が進む中、1,000キロワットを超えるメガソーラーの建設需要も高まっています。当社は電気設備工事で蓄積した技術を活用し、2009年よりこの分野に参入。企画・提案から施工、発電所運転まで、一貫して行えることを強みに、事業規模を拡大しています。

環境との共生

次の世代のために、今できること。
持続可能な社会の実現をめざして。

21世紀は環境の世紀と言われますが、当社はそれ以前より、環境に配慮した事業活動を行うことを重要な課題のひとつとしてとらえてきました。近年では、拍車のかかる地球温暖化や大気汚染、資源・エネルギー需要の急激な変化など、今まで以上にビジネスと環境の調和に配慮が求められる時代にあることを企業として再認識し、社員一丸となって環境保全への取り組み（「省エネルギー」「省資源」「廃棄物削減」「エコ製品活用」など）を強化しています。また、2004年には環境マネジメントシステムの国際規格「ISO14001」の認証を取得。より高いレベルでの“環境経営”を実現することを通じて、企業価値のさらなる向上を目指しています。



配線をはじめ、当社が施工を行う際に使用する資材について、環境負荷の小さい製品を積極的に活用。廃棄物の適切な処理とリサイクルにも努めています。また、産業用を中心とした太陽光発電システムの施工業者として、その普及を推進しています。



社用車にエコカーを導入し、CO₂・排出ガスの低減を図っているほか、電力使用量の削減、紙使用量の抑制、事務所内ゴミ分別など、事業環境での省エネルギー・省資源を徹底。啓蒙活動も積極的に行い、社員個々の環境意識向上を進めています。



「私たちのまちを、私たちの手できれいに」との考えから、毎月第1月曜日の早朝に社員全員で本社周辺の路上清掃活動を実施しています。地域が主催する市民清掃活動にも、社員有志がボランティアで参加。毎回、気持ちのよい汗を流しています。



地域の絆

今日までも、明日からもずっと。
地域とともに発展し続けるために。

大垣の地で誕生した弘光舎は、地域とともに歩み、発展する企業であり続けるために、企業市民としての活動やコミュニケーションを大切にしてきました。そして、創業から現在まで変わることなく、事業の利益を地域社会に還元することを信念とし、「まちづくり」「交流」「教育支援」を柱としたさまざまな地域社会への貢献活動に取り組んでいます。社会事業・チャリティイベントに対する寄付や協賛、地元行事への参加、ボランティア活動の実施はその一例。特に「まちづくり」の分野は、代表取締役会長・小野泰男の代より、30年以上に亘って大垣商工会議所活動の一翼を担うなど、力を注いでまいりました。

これからも地域社会への貢献活動を通じて、より多くの人々とふれあい、絆を深めていくことをめざします。



市民の皆様にも親しまれているモニュメント時計は、1993年に弘光舎本社ビル竣工を記念し、フルオーダーメイドで製作されました。毎日10時・12時・15時には美しいカリヨンの響きが時刻を知らせ、2体のからくり人形がハンドベルを演奏します。



「路上だけでなく、人々の心にも灯りを届けたい」。そんな思いを込めて1993年に寄贈させていただいた水門川沿いの街路灯は、細部までこだわったアンティーク調のデザイン。歴史と文化に育まれた大垣市の風情ある街並みに調和します。



代表取締役会長・小野泰男は1988年から2008年まで30年間に亘り、大垣商工会議所の役員として、地域振興に貢献してまいりました。その志を代表取締役社長・小野義明が引き継ぎ、地元会員企業様との親交を深めながら活動を続けています。

会長・社長×OB社員

弘光舎の軌跡を語る ～卓越した技術、誠実な施工で100年～

創業100周年を機に、当社の発展に尽力したOB社員が集まり、座談会を開催。小野泰男会長、小野義明社長を囲み、懐かしい思い出話に花を咲かせました。

●出席者●

小野 泰男
(代表取締役会長)

小野 義明
(代表取締役社長)

日比野次朗

岩根 富雄

佐部利 茂

中野 義弘

田中 正俊



小野社長 みなさんの在職中の思い出や、印象深いエピソードをお聞かせいただけますか。

中野 私は昭和38年から50年間、弘光舎に勤務しました。電気工事会社に縁がある家系で、祖父の中野桂一は東邦電力（※日本の大正・昭和戦前期に存在した電力会社）の出身。稲沢市・一宮市周辺における配電線の拡大延長工事に携わったと聞いています。

小野会長 中野さんのおじい様は、当社創業者の小野弥六とバックグラウンドが似ていますね。不思議な巡り合わせを感じます。当社は、小野弥六が西濃地方の配電線の拡大延長工事を請け負ったのをきっかけに大垣に移転、大正から昭和初期にかけて東邦電力さんの大垣支店にご愛顧いただき業務を拡大しました。

中野さんは、おじい様の活躍をご両親から伝え聞いていらっしゃるのでしょうか。先人の苦労や偉業、現在に至るまでの歴史的事実を記念誌に残すことは、未来への道しるべとして大きな意義がありますからね。本日お集りいただいたOB社員の中で、在職期間が最も長かったのは岩根さんでしょうか。

岩根 はい。昭和28年に高等学校を卒業後、弘光舎に入社しました。

小野社長 昭和28年といえば、弘光舎が大垣駅前ビル内に居を構えていた頃ですね。私はまだ生まれて

いませんでした。

岩根 藤田、片桐、浅野、丸岡らとチームを組み、西濃病院（現在の大垣市民病院）をはじめとする病院から、矢橋工業さんのビル、三洋電機岐阜工場さん、大垣駅前通りの中・高層ビル、大垣市庁舎まで、さまざまな案件を担当させていただきました。

小野社長 特に印象に残っているのはどの案件ですか。

岩根 三洋電機岐阜工場さん（※カラーテレビの増産に向けてつくられた工場。製品名にちなんで敷地周辺に約1万本の薔薇が植えられ、“薔薇工場”の異名を持った）と、大垣駅前通りの中・高層ビルですね。どちらも、昼夜の区別なく仕事に明け暮れた一大プロジェクトでした。

小野会長 大垣駅前通りにある中・高層ビルのほとんどは、技術力を高く評価された当社が電気設備工事を手がけました。電気設備工事というのは、建築会社が建物をつくってから作業。当時は労働基準法などの法律が整備されていなかったこともあり、誉められた話ではありませんが、夜を徹しての作業も日常茶飯事でした。

日比野 小野会長の奥様がよく、夜中の工事現場へおにぎりを差し入れてくださったのを覚えています。

岩根 私たちの世代にとっては、伊勢湾台風（※昭和34年に発生した

台風15号。特に紀伊半島一帯と東海地方が暴風、高潮、河川の氾濫により甚大な被害を受けた）の復旧工事も忘れられません。

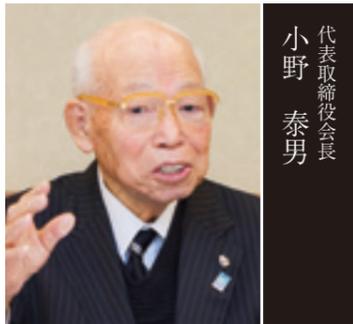
小野会長 ポンプメーカーの荏原製作所さんから特命を受けた、三重県北部の復旧工事。田んぼも畑も海水で冠水してしまったため、それぞれ昼夜の境なく工事を進め、3カ月間という短納期で排水機場55カ所を復旧、完成させました。

岩根 これが、一度真水を張って脱塩した後に排水するという非常に労力を要する作業で、塩害の恐ろしさを目の当たりにしました。復旧を急ピッチで進めることができたのは、東芝三重工場さんの協力があったこと。水没した電動機や配電盤、附属機器の脱塩・乾燥作業のために、工場側のご努力を頂戴しました。

小野社長 日比野さんは資材部を長年担当され、当社では名物的な存在でしたね。

日比野 さまざまなお得意先様を担当した中で、大垣共立銀行さんには特に可愛がっていただきました。長年窓口となり、多くの支店を手がけ





代表取締役会長
小野 泰男



代表取締役社長
小野 義明



中野 義弘
〈積算、東京支店、名古屋支店勤務〉
昭和38年～平成24年在籍



岩根 富雄
〈営業担当〉
昭和28年～平成18年在籍

たことが印象に残っています。

中野 私が若手だった頃、大垣共立銀行さんとの打ち合わせに向かう日比野さんに同行したことがあります。お客様からの信頼が厚く、私もこんな風になりたいと憧れを抱きました。一方で日比野さんは後輩や部下の面倒をよく見てくれ、周囲から慕われていましたね。私もよく昼食をごちそうになったものです。

小野会長 田中さんも、営業部長としてたくさんのお得意先様を担当されました。

田中 電気工事のいろはも分からず弘光舎に入社した私ですが、よき先輩方（中でも喜多工事部長）や仲間にいたかやまに恵まれ、営業畑一筋に働かせていただきました。仕事をする上で一番大切にしていたのは、人的なつながり。「営業は足で稼ぐ」という言葉通り、お客様との接点を継続的に持ち、信頼関係を築くことに努めました。土屋組さん、未来工業さんをはじめ、100軒以上のお得意先様を定期的に訪問していた当時、手放せなかったのがスケジュール帳。今でも1カ月先、2カ月先の予定を細かく決めて行動するのは、現役時代の名残かもしれません。

小野社長 田中さんは当社の業績向上に大きく寄与されました。お客様とのコミュニケーションを大切にする田中さんの営業スタイルを、弘光舎のDNAとして継承していかなければと改めて思います。

ればと改めて思います。

田中 しかし振り返ると、あの頃は集金業務が大変でした。ほとんどが現金のやりとりでしたから。

中野 そうそう。100万円以上の単位の案件になると、お客様の所で紙幣の枚数を確認しながら手が震えたものです。領収書を漢数字で書くのにも苦労しました。

小野会長 佐部利さんは購買担当として当社の発展にご尽力いただきましたが、印象的なのは、インドネシアのマンガス農場での大きな電気・給排水工事でしょうか。

佐部利 三井物産グループの東邦物産さんから請け負った当社初の海外工事にいたかやまで、昭和46年の1月から約4カ月間、工事主任として現地に赴任しました。当時はビザを取るのも難儀で、わざわざ東京のインドネシア大使館まで出向かなければならなかったんですよ。それでも滞在許可が下りた期間はたったの1週間。渡航してから現地で延長を繰り返しました。

小野社長 インドネシア滞在中のエピソードを教えてください。

佐部利 現場は、雨が降ったら車が通れなくなってしまうような山奥で、しかもインドネシア人50人に技術指導しながらの作業。言葉の壁や考え方の違いなどに苦労しましたが、片言の英語を駆使して何とか意思疎通を図りました。工事が完了し、

お客様である東邦物産さんから感謝の言葉をいただいた時は、感無量でしたね。余談ですが、インドネシアの滞在期間はちょうど雨季。宿舎では羽根の生えたヤモリが飛び交い、毎朝必ずといっていいほど、靴の中にサソリが潜っていました。今となっては楽しい思い出です。

小野会長 佐部利さんは会社からの派遣という形で、台湾の新高山（現・玉山、標高3,952m）登山にもチャレンジされました。

佐部利 私は大垣山岳協会の一員として、伊吹山の北尾根コース造成に関わりました。昭和35年から3年間を費やした取り組みです。その完成記念に計画されたのが、昭和40年の台湾、新高山登山。「つちや」の故・榎谷祐一さんを隊長とする10人のメンバーに選ばれたため、会社の許可を得て2週間休みをもらい、参加させていただきました。

小野会長 あの頃、海外旅行は高嶺の花でしたね。

佐部利 ましてや登山となれば、雲をつかむような話。不安もあり、岐阜県じゅうの台湾に行ったことのある人を紹介してもらっては、気候などの情報収集目的で足を運びました。現地では台湾の山岳協会の方に案内してもらったのですが、やはり標高4,000m級の山。登頂に成功したものの、低酸素状態で口もきけないほどのひどい頭痛に襲われまし

た。大変でしたが、いい経験をさせてもらいましたね。

小野会長 話は変わりますが、弘光舎の100年の歩みの中で、逝去されたOB社員の方も大勢いらっしゃいます。そして、当社の発展を支えてくださったみなさんも私と同様、高齢者の仲間入りをされました。日頃、健康維持のために努力していることはありますか。

日比野 私は毎日、リハビリかたがたプールに通い、水泳に励んでいます。やはり体が資本。77歳になり、そのことをしみじみ実感しています。

田中 私は、早朝の清掃ボランティアが健康の基本になっています。あとはよく歩くこと。体を動かすことが何より大切ですね。

小野会長 みなさんには今後とも健康に十分留意され、当社の成長を見守り続けていただきたいと思います。また機会を見つけて思い出話に花を咲かせましょう。



佐部利 茂
〈購買担当、平成21年まで現監査役〉
昭和37年～現在



日比野 次朗
〈購買担当〉
昭和28年～平成7年在籍

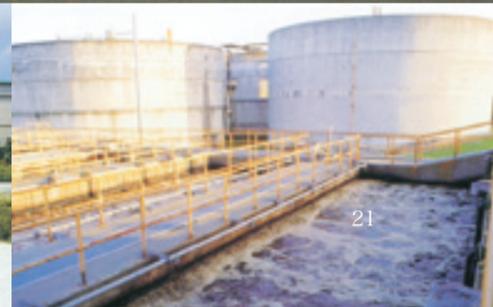


田中 正俊
〈営業担当〉
昭和38年～平成12年在籍





第 1 編 施工実績



Category 1

人に安らぎを与え、幸せを生み出すステージをプロデュース

ホテル・流通ビル・店舗・ゴルフ場

●大垣フォーラムホテル「伊吹の間」

■岐阜県クリスタルパーク恵那スケート場



■養老カントリークラブ



■大垣フォーラムホテル



■JR 大垣駅アピオ



■メナードカントリークラブ西濃コース





Category 2

経済の基盤を築き、価値を生み出すステージをプロデュース
企業・工場

●東海西濃運輸株式会社 岐阜東濃支店

■トーカイフーズ株式会社



■東海西濃運輸株式会社 岐阜東濃支店



■太平洋工業株式会社 特高変電所



■西濃運輸株式会社



■コダマ樹脂工業株式会社 池田工場



■太平洋工業株式会社 本社・西大垣工場



■太平洋工業株式会社 東大垣工場



■太平洋工業株式会社 養老工場



■太平洋精工株式会社 大垣工場



■株式会社大垣共立銀行



■岐阜日野自動車株式会社 各務原支店



■滋賀日野自動車株式会社



Category 3

地域社会がより安心・安全に
暮らすためのステージをプロデュース

学校・公共施設・福祉施設

■ 瑞穂市立穂積中学校



■ 岐阜県立揖斐特別支援学校



■ 岐阜県健康科学センター



■ 大垣市役所



■一般社団法人 ぎふ総合検診センター



■大垣市武道館



■大垣市民病院



■東海環状 美濃関JCT～西関IC 池尻笠神トンネル



笠神トンネル東坑口から望む



笠神トンネル西坑口から望む



笠神トンネル内部状況



2009年(平成21年)3月29日(日曜日)
開通前市民ウォーク関広見インターから続く約2000人が参加した



Category 4

社会インフラを整備し、生活環境の向上をプロデュース
 給水施設・ポンプ場・排水機・し尿処理場

●日光川排水機場

■東濃西部送水幹線増圧ポンプ場電気設備（岐阜市）



■赤坂水源地遠方監視設備（大垣市）



■各務原市上水道



■緑園水源地改良電気設備（大垣市）





Category 5

自然との共生を目指し循環型の社会をプロデュース
太陽光発電・EV充電スタンド

●養老ドリーム太陽光発電

■養老ドリーム太陽光発電 メガソーラー



■瑞穂市立穂積中学校



■各務原市立稲羽中学校



■岐阜日産自動車株式会社 県庁前店



■中部三菱自動車販売株式会社
西尾山下店



■太平洋工業株式会社 本社・西大垣工場



■太平洋工業株式会社 北大垣工場



■太平洋工業株式会社 東大垣工場



■太平洋工業株式会社 養老工場



第2編 100年のあゆみ



第1章 明治・大正から戦前戦中時代

明治・大正～昭和20年

創業者の小野弥六は1913年、太平洋戦争へと向かう時代の荒波の中で大垣の地に弘光舎を開設。そこには当社のDNAともいえるチャレンジスピリットが宿っていた。

会社の動き

- 明治37年～ (1904)
- 明治45年 (1912)
- 37. 5. 10 弘光舎本店創業（東京市京橋八官町）
電気工事業経営・舎主／伊丹吉次郎
- 39. 小野弥六本店入社
- 41. 小野弥六弘光舎樺太眞岡出張所勤務
- 43. 小野弥六弘光舎気仙沼出張所勤務
- 45. 6. 1 関西弘光舎設立（岐阜市長住町）
社長／伊東吉次郎
- 45. 小野弥六桐生出張所所長就任

- 大正元年～ (1912)
- 大正14年 (1925)
- 3. 5. 25 弘光舎大垣出張所開設 小野弥六が所長就任
- 13. 東邦電力岐阜変電所建設工事（現中部電力加納変電所）
- 13. 3. 10 小野泰男出生

- 昭和元年～ (1926)
- 昭和10年 (1935)
- 昭和11年～ (1936)
- 昭和20年 (1945)
- 11. 8. - 大垣市庁舎落成（弘光舎施工）
- 20. 1. - 小野泰男、各務原陸軍航空技術少尉に任官
- 20. 9. - 小野泰男、退役



社会・地域の出来事

- 41. 大垣電話所が開設される
- 42. 大垣に電灯がつく
- 45. 第5回オリンピックストックホルム大会開催で、日本初参加
- 2. 7. - 養老鉄道開通
- 7. 4. 1 大垣市制施行
- 10.11.12 電気協会設立
- 12. 9. 1 関東大震災
- 14. 7. 17 ラジオ放送開始
- 3. 2.20 第一回普通選挙実施
- 3. 4.10 日本商工会議所設立
- 6. 4. 1 改正電気事業法公布
- 7.11.21 電気事業法施工令、同規則発布
- 10. 9. 30 電気用品 / 電気工事人取締り規則公布
- 10.10. - 岐垣国道完成
- 11. 4. - 大垣城国宝指定（弘光舎電気設備施工）
- 11.11. 7 国会議事堂完成
- 13. 4. 1 国家総動員法を公布
- 13. 4. 6 電力管理法、日本発送電会社法公布
- 13. 7. 7 公定価格制度の確立
- 13. 7. - 大垣市内豪雨被害甚大
- 14. 4. 1 日本発送電設立
- 14. 7. 8 第二次世界大戦勃発
- 14.10.18 電力調整令、価格統制令公布
- 16. 3. 1 国民学校令公布
- 16.12. 8 太平洋戦争始る
- 16.12.16 物価統制令公布
- 17. 4. 1 全国9地区に配電会社設立
- 19.12. 7 東南海地震
- 20. 3. 9 東京大空襲
- 20. 7.29 大垣大空襲、国宝大垣城焼失
- 20. 8. 6 広島に原子爆弾投下、9日に長崎投下
- 20. 8.15 日本ポツダム宣言受諾、終戦
- 20.12.22 労働組合法公布



創業者・小野弥六 小野弥六の妻・亀野



大正7年当時、弘光舎大垣出張所一同（右から3番目が現会長の小野泰男）



愛車のハーレー・ダビッドソン（大正7年当時）



大正13年当時、東邦電力岐阜変電所建設工事（現中部電力加納変電所）

history

弘光舎の成り立ち

明治時代は、我が国における近代化の幕開けであった。その象徴ともいべき電灯が1882年（明治15年）11月1日に初めて東京・銀座に設置されて以降、空前の電灯会社・発電所設立ブームが到来。当社の創業者である小野弥六が入社した東京市京橋の「弘光舎本店（弘光舎の前身）」は、こうした時代背景の中で生まれた新興の電気工事会社の一つであった。弥六は、樺太眞岡、気仙沼、桐生にそれぞれ出張所長として赴任した後、東京本社に戻り、同店の中核を担う存在へと成長。そして1914年（大正3年）、弥六の義兄と電力会社・岐阜ガス電燈株式会社の要請を受け、新たに開設した弘光舎大垣出張所の所長に、のれん分けとい

う形で就任した。大垣市伝馬町の一角に誕生したこの弘光舎大垣出張所こそ、当社の礎である。大垣への転居は巡り合わせだったのであろう。しかし、弥六の事業家としての資質や飽くなきチャレンジスピリットなくしてはこうしたチャンスを決して引き寄せられなかったに違いない。

やがて大正時代も末期になると、電力会社の統合が進み、中部地方においては1922年（大正11年）に発足した東邦電力株式会社が台頭。同社大垣営業所所長の吉竹武彦氏と弥六が同郷で親しい間柄だったこともあり、弘光舎は同社の発展と歩みを共にしていくこととなった。なお、東邦電力の大垣営業所が現在の郭町1丁目に移転したのを機に、弘光舎も郭町2丁目の駅通りに移転している。

第2章 昭和後期から高度経済成長期

昭和21年～昭和50年

戦後15年を経て日本は高度経済成長期に入り、発展の一途をたどる。当社の業容も電気設備工事から計装設備工事分野へと拡大し、順調に成長を続けた。

会社の動き

- 昭和21年～ (1946)
- 昭和30年 (1955)
- 22. 4. 16 大垣市高砂町1丁目31番地に合資会社弘光舎法人登記 資本金 ¥70,000
代表社員／小野弥六就任
- 23.11.30 資本金 ¥200,000
- 25. 5. 25 建設業登録 登録番号イ770号 電気工事業
- 27. 8. - 大垣競輪場完成 (電気設備施工)
- 28. 7. 13 代表社員／小野泰男就任

社会・地域の出来事

- 21.11. 3 日本国憲法発布
- 22. 4. 7 労働基準法発布
- 22. 5. 19 経営者団体連合会発足
- 23. 7. 26 「電設工業会」設立
- 24. 4. 28 「日本電設工業会」と改称
- 24.11. 3 湯川秀樹博士日本人発のノーベル賞受賞
- 25. 5. 24 建設基準法公布
- 26. 5. 19 電力会社発足
- 26. 9. 8 講和条約調印
- 28. 2. 1 NHK テレビ放送開始
- 28. 4. 2 日米友好通商航海条約調印

- 昭和31年～ (1956)
- 昭和40年 (1965)
- 34. 4. - 大垣城再建 (電気設備施工)
- 34.10. - 大垣市民病院開業 (電気設備施工)
- 35. 7. 5 資本金 ¥500,000
- 36. 4. 28 資本金 ¥1,600,000
- 37. 4. 21 資本金 ¥3,000,000
- 38. 3. 1 合資会社弘光舎岐阜支店開設
- 38. 8. 1 資本金 ¥7,500,000
- 38. 8. 23 本社を大垣市西外側町1丁目31番地に移転
- 39. 3. 21 資本金 ¥11,100,000
- 39. 3. 21 大垣市西外側町1丁目31番地に関連会社新弘電機株式会社を設立
- 39.12. 1 新弘電機株式会社を合併し、株式会社弘光舎と改名
資本金 ¥13,500,000
- 40. 3. 1 名古屋営業所開設 (名古屋市区牛島町107)

- 31. 3. 20 樽見線開通
- 31.12. 18 国際連合で日本の加盟承認
- 32.10. 4 ソ連が世界で初めて人工衛星スプートニク1号打ち上げ
- 33. 1. 1 EEC発足
- 34. 4. 10 皇太子殿下 (現天皇陛下) 御成婚
- 34. 9. 26 伊勢湾台風襲来
- 35. 8. 1 電気工事士法公布
- 35. 9. 10 カラーテレビ本格放送開始
- 35.12. 17 所得倍増計画閣議決定
- 36. 9. 15 第2室戸台風で美濃地方被害甚大
- 36. 9. 30 OECD (経済協力開発機構) 発足
- 36.10. - 大垣市の人口10万人突破
- 37. 9. 12 「原子の火」ともる
- 39. 7. 11 電気事業法公布
- 39.10. 1 東海道新幹線開通
- 39.10. 10 第18回オリンピック東京大会開催
- 40. 7. 1 名神高速道路全線開通
- 40. 6. 15 電気設備の技術基準公布
- 40. 9. 19 岐阜国体開催
- 40.12. - 電気保安協会全国9地区に設立



昭和38年に移転した弘光舎本社

history

伊勢湾台風の記憶

1959年(昭和34年)9月26日、東海地方を直撃した伊勢湾台風は5,098人もの犠牲者を出し、戦後最大の台風として日本の自然災害史にその名を残す。伊勢湾周辺地域の堤防は海側に石積がなされ、道路はアスファルトによって頑丈に施工されていたが、最大瞬間風速45.7mの猛烈な暴風と15mの大波によって、もろくも崩壊。大量の海水が市街地に流れ込み、田畑から家屋、道路、配電線路まですべてが水没して、塩害が発生するに至った(ひとたび塩害が起きると、真水を用いて排水を繰り返して脱塩処理しなければならず、相当の労力と時間を要する)。また、道路はもとより、国鉄、名鉄、近鉄といった電車路線も甚大な被害を受け、不通区間が多数発生(近鉄は水没区間復旧を機に、線路を狭軌から広軌へ標準軌化することを決め、名古屋から大阪迄を一挙に完工した)。伊勢湾周辺地域は文字通り、大惨事となった。

このような状況下で、ポンプメーカーの株式会社荏原製作所より要請を受けた当社は、桑名市に30余名の電気、重量運搬の技術者を派遣し、復旧作業に着手した。通信線も使用不可能だったため、資材輸送や工事上の連絡手段は伝書鳩という中での奮闘であった。やがて50余箇所の排水機場は、被害を免れた東芝三重工場の応援(脱塩、乾燥、ワックス加工、試験)にも助けられ、次々と復旧。3ヶ月後にはほとんどの機場が運転を再開する運びとなった。完工後、建設省、四日市水道局、桑名、鍋田干拓、木曾岬干拓などの農地事務所から寄せられた謝辞や、発注主である荏原製作所か

ら贈られた畠山社長名の表彰状は当社にとって荣誉である。まさに全社員一丸となつての努力の賜物で、復旧の一翼を担えたことを誇りに思うとともに、この場をお借りして関係各位に敬意と感謝を申し上げたい。

その後1977年(昭和52年)1月、建設省は被害の大きかった佐織町から日光川にかけて、伊勢湾台風規模の洪水に耐えうる大規模な排水機場を建設することを決定。落札者の荏原製作所より、当社は電気・テレメーターなどの工事を受注した。奇しくも伊勢湾台風の災害復旧活動を通じて結ばれた荏原製作所との絆が、当社が計装設備工事分野で躍進するきっかけとなったのである。この排水機場は毎秒50m³の排水能力を持ち、当時としては世界最大級と言われた。完成は1978年(昭和53年)8月。排水ポンプの羽根は直径4.6mの縦軸型で、起動時の豪音は誠に凄まじいものであった。もちろん本機場の運転には各種補機が始動を支援するほか、日光川上流の水位、流量と天候の関係を無線伝送によってシミュレートした上で運転準備に入るよう設計されている。

また、伊勢湾台風から5年後の1964年(昭和39年)を境にして、日本経済は上昇気運にのり、国鉄はJRと名称を改め、新幹線の運営をはじめ、東京オリンピックも開催、日本経済は華々しく復興を遂げた。電力の需要も大きく進展し、従来の高圧電力(6,600V級)で不足を来す工場も徐々に増え、特別高圧配電線路(33KV~77KV)への切り替えも多くなり、それに伴い弘光舎もその施工を多く担当させていただいた。当社は地域そして日本の経済の発展に大きく寄与しながら成長してきたのである。

特別高圧変電所▶ 施工実績一覧表 (増):増設 (納):特高機器納入

年	会社名	受電電圧	容量
1963年(昭和38年)	東海ホール株式会社	30KV	3,000KVA
1968年(昭和43年)	二村化学工業大垣工場	30KV	5,000KVA
1970年(昭和45年)	二村化学工業大垣工場	30KV	(増)11,500KVA
1970年(昭和45年)	太平洋工業西大垣工場	70KV	6,000KVA
1970年(昭和45年)	三洋電機岐阜工場	30KV	6,000KVA
1972年(昭和47年)	二村化学工業大垣工場	30KV	(増)7,000KVA
1972年(昭和47年)	二村化学工業名古屋工場	70KV	15,000KVA
1974年(昭和49年)	グラントタマコシ本社	30KV	5,000KVA
1975年(昭和50年)	上田石灰工業株式会社	70KV	10,000KVA
1977年(昭和52年)	太平洋工業西大垣工場	70KV	(増)10,000KVA
1984年(昭和59年)	三洋電機岐阜工場 特別変電所 データ処理システム設備	30KV	15,000KVA
1985年(昭和60年)	河合石灰工業本社	70KV	(納)5,000KVA

会社の動き

社会・地域の出来事

昭和41年 (1966)	41. 3. 22 名古屋営業所移設 (名古屋市西区上堀越町1丁目17番地) 41. 3. 22 岐阜営業所移設 (岐阜市六条字溝下町)	41. 3. 31 全国人口1億人突破 41.12. 9 建国記念日制定
昭和43年 (1968)	43. 4. - 大垣市民会館完成 (電気設備施工)	
昭和44年 (1969)		44. 5. 26 東名高速道路全線開通
昭和45年 (1970)	45. 7. 28 資本金 ¥20,000,000	45. 3. 14 日本万国博覧会開催 45. 5. 15 電気工事業法公布
昭和46年 (1971)	46. インドネシア海外工事 (マンガス農場) 46. 5. 24 岐阜営業所移設 (岐阜市大字西ノ荘字長ノ外 1807-4)	46. 6. 7 沖縄返還協定調印 46. 8. 28 円変動相場制へ移管
	 岐阜営業所	 社員旅行にて
昭和47年 (1972)	47. 7. - 大垣市民プールオープン (電気設備施工) 47.12. 1 資本金 ¥40,000,000	47. 2. 3 第11回冬季オリンピック札幌大会開催 47. 5. 15 沖縄日本へ復帰
昭和48年 (1973)	48. 3. 20 弘光舎名古屋支店移設 (名古屋市西区菊地通り1-1) 同日名古屋支店に昇格 48. 5. 25 弘光舎60周年 48. 9. 5 建設大臣許可 (特-48) 第1654号電気工事業	48.10.23 第一次オイルショック

history

弘光舎 名古屋支店開設

カラーテレビやクーラー、自家用車が普及し、アジア初の万国博覧会「大阪万博」が開催されるなど、高度経済成長に湧いた1970年代前半の日本。世の活気に押されて弘光舎の業績も波に乗り1971年(昭和46年)、名古屋市西区菊井通り1-1(町名変更により、現在は名古屋市西区浅間2丁目5番地)に500坪の土地を買収、名古屋支店を開設した。用地の一部は賃貸して、賃料収入を得ることとした。名古屋支店長には、小野充雄

常務取締役が就任。以来、本社と同様、電気設備、空調工事を主力とした営業、施工を実施している。



名古屋支店

history

インドネシア(マンガス農場)の施工

1971年(昭和46年)、当社は初の海外工事として、インドネシアのジャカルタ南部約60kmにある「マンガス農場」の発電設備(約300kVA)、水道工事、照明工事(街灯を含む)などを受注した。三井物産並びに東邦物産からの要請に応えたもので、当社より主任技術者に佐部利茂、工事主任に杉原俊明を派遣。電気機器の輸入手続きや通関での対応など苦労もあったが、現地住民の応募者50余名を動員し、約3.5ヶ月間

の工期で完成させた。

この工事によってマンガス農場の全施設に蛍光灯照明がついたため、村をあげて大変な騒ぎになったようである。竣工式ではマンガス農場のマリク社長(インドネシアのマリク元外務大臣の実兄)から褒賞が贈られ、管理者として派遣された両名の奮闘がたたえられた。発注商社幹部の方々と共に、その喜びを分かち合ったものである。

また、後日、マリク社長夫妻が御礼にと当社をご訪問いただいたことも特筆しておきたい。



ホテルインドネシアにおける開所式



建設資材置場



現場視察



MANGGIS FARM 事務所



施工記念プレート

第3章 昭和後期から平成へ

昭和51～平成11年

創業以来、「地域とともに歩み、地域とともに栄える」との思いを胸に成長してきた弘光舎。新本社ビル竣工後は地域貢献に力を入れ、さまざまな取組みを行ってきた。

会社の動き

昭和51年 (1976) 51.10.27 本社を大垣市神田町1丁目1番地に住所変更
51.10.27 岐阜営業所を岐阜市江添3丁目10番地に住所変更

昭和53年 (1978) 53.1.31 岐阜営業所を本社統合の為閉所
53.11.22 資本金 ¥60,000,000

昭和54年 (1979) 54.1.17 第二次オイルショック
54.3.28 米国スリーマイル島原子力発電放射能漏れ事故

昭和55年 (1980) 55.1. - 大垣市立図書館完成 (電気設備施工)
55.2. - 大垣市総合体育館完成 (電気設備施工)

昭和56年 (1981) 56.8.23 名古屋支店、名古屋市西区浅間二丁目5番11号に住所変更
56.3. - 建設省「電気工事近代化モデル計画」を発表
56.10.19 京都大学福井謙一教授ノーベル賞受賞

昭和57年 (1982) 57.6.23 東北新幹線開業

昭和58年 (1983) 58.4. - 創立70周年記念として大垣市立図書館に陶壁画 (鈴木青々作) を寄付 (¥12,000,000相当)
58.9.1 東京都中央区京橋3丁目11番4号に東京支店を開設

昭和59年 (1984) 59.2. - 西濃用水完成
59.5.12 NHK衛星テレビ放送開始

昭和60年 (1985) 60.12.7 大垣駅新装開業 (一部施工)

昭和61年 (1986) 61.3. - 大垣駅ビル「アピオ」オープン (一部施工)
61.11.28 国鉄分割・民営化関連8法案成立、国鉄の歴史に幕

昭和62年 (1987) 62.9.1 東京支店、東京都中央区日本橋浜町2丁目60番2号に住所変更
62.8.4 電気施工管理技術検定の実施始まる
62.10.12 利根川博士ノーベル医学賞受賞

社会・地域の出来事

51.5.18 中央高速道全面開通
51.9.12 集中豪雨で大垣市内1/3が浸水

53.5.20 成田新国際空港開港
53.8.12 日中平和友好条約調印

54.1.17 第二次オイルショック
54.3.28 米国スリーマイル島原子力発電放射能漏れ事故

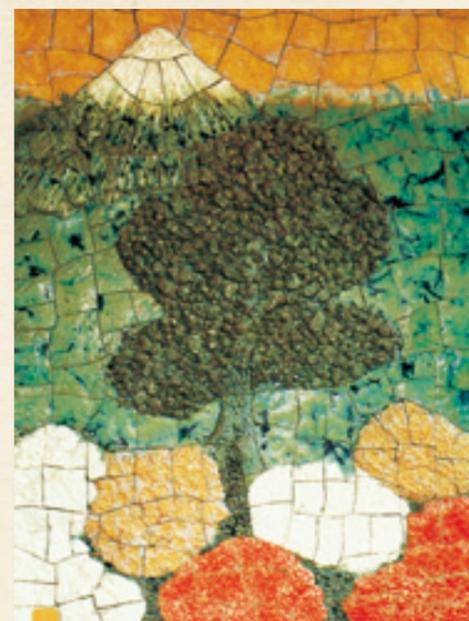
55.10.1 新エネルギー開発機構 (NEDO) 発足

56.3. - 建設省「電気工事近代化モデル計画」を発表
56.10.19 京都大学福井謙一教授ノーベル賞受賞

57.6.23 東北新幹線開業

58.7. - 岐阜県の人口200万人突破

59.2. - 西濃用水完成
59.5.12 NHK衛星テレビ放送開始



大垣市立図書館に寄付した陶壁画と作者・鈴木青々氏直筆の書 (右)



70周年を記念して発行した記念誌



十万石まつりの企業みこしに参加



小野会長夫妻、企業みこしの前で



住所変更した名古屋支店

会社の動き

社会・地域の出来事

昭和63年 (1988)		63. 7. 4 「ぎふ中部未来博覧会」開幕
平成元年 (1989)	1. 4. 14 岐阜市六条南3丁目6番18号に岐阜支店開設 1. 5. 25 弘光舎75周年 1. 6. - 大垣市民プール完成(電気設備施工)	1. 1. 7 昭和天皇ご崩御 1. 4. 1 消費税3%の導入
平成2年 (1990)		2. 9. 20 台風10号による大垣市豪雨被害
平成3年 (1991)	3. 5. 31 東京支店を閉店 3. 9. 17 新本社ビル着工	3. 1. 17 多国籍軍イラク攻撃、湾岸戦争始まる(2/28 終結) 3. 12. 26 ソ連邦解体、消滅、12ヶ国に
平成4年 (1992)	4. 8. 31 平成4年度の年間売上高55.2億円、過去最高を記録する	
平成5年 (1993)	5. 1. 8 新本社ビル竣工 5. 7. 31 北海道南西沖地震への義援金(¥106,494)を岐阜新聞西濃支社を通じ募金 5. 9. - 月刊マガジン「charge & challenge!!」を創刊 5.10.10 大垣十万石祭に企業みこしで参加 5.11. 3 社内ソフトボール・テニス・卓球大会実施 5.11. 3 電飾イルミネーションを本社ビル壁面に設置 5.11.20 第3回弘光舎コンサート開催 5.12.19 弘光舎ビル多目的ホール開設1周年記念行事「子供達の新春ピアノ音楽会」オーディション開催	5. 6. 9 皇太子殿下と雅子さまご成婚
平成6年 (1994)	6. 5. 30 資本金90,000,000円 6. 3. 4 光ファイバーケーブル講習会を実施 6. 1. 22 弘光舎ビル多目的ホール開設1周年記念行事「子供達の新春ピアノ音楽会」開催 6. 4. - 弘光舎本社ビル完成記念事業の一環で水門川沿いの街路灯(6基)を大垣市へ寄贈 6. 7. 15 第25回安全大会開催、第8回技術講習会実施 6.10.10 大垣十万石祭に企業みこしで参加 6.10. - 大垣市民病院の診療病棟、救命救急センター完成(電気設備施工) 6.12. - 電飾イルミネーションを本社ビル壁面に設置	6. 7. 1 PL法公布 6. 11. 2 円高1ドル=96円



平成5年に施工した新本社ビル



施工当時の事務所の様子



当時としては、最新鋭の設備を導入



竣工披露パーティ



企業間の交流を深めた



本社ビル壁面に飾られた電飾イルミネーション



各務原支店

会社の動き

社会・地域の出来事

平成7年 (1995)	7.1. - 阪神大震災への義援金 (¥154,996) を新聞社を通じ被災支援団体へ寄付	7. 1.17 阪神淡路大震災発生
	7.2. 2 阪神大震災の被災地・西宮対策本部に携帯ラジオ 100 台を寄贈	7. 3.20 地下鉄サリン事件発生
	7.5.31 岐阜県優秀建設現場従事者表彰で滝澤一郎さんが受賞	7. 4.19 円相場 80 円突破、一時 79 円 75 銭に
	7.6.24 小野泰男、アメリカ情報産業視察～7.5	7.12. 1 電気事業法の改正
	7.10.10 弘光舎、安全協会共催ソフトボール大会開催	7.12. 9 白川郷の合掌造り集落が世界遺産登録
	7.12. 2 電飾イルミネーションを本社ビル壁面に設置	
	7.12. 7 弘光舎メディアボックス開店 7.12.31 岐阜支店、本社統合の為閉店	
平成8年 (1996)	8.6. - ソフトピアジャパンセンターオープン (電気設備施工)	8. パソコン、携帯電話の普及に拍車
	8.10. - 積算課と空調管工部、名古屋支店に積算作業システムを導入	
	8.10.26 本社ビルが「店舗建築物デザイン優秀賞」を受賞	
平成9年 (1997)	9.5. 1 各務原市大野町 1 丁目 151 番地に各務原支店を開設	9. 4. 1 消費税 5 % スタート
	9.5.30 滝澤一郎さんが「優秀施工者建設大臣顕彰」を受賞	9. 6. 1 電気設備技術基準の改正
	9.10.10 ソフトボール大会開催	
	9.12.18 本社ビル壁面に垂れ幕を掲げ、ライトアップ	
平成10年 (1998)	10.3. - GPS ゴルフナビの営業開始 販売元…長野 NTT データ通信 (平成 11 年まで)	10.2. - 大垣市情報工房オープン
	10.5.22 境川浄化施設機械設備工事において、現場安全管理最優秀賞を受賞	10.2.7 第 18 回冬季オリンピック長野大会開催
	10.10.10 ソフトボール大会開催	
平成11年 (1999)	11.4. - NS21 (委員会) 発足	
	11.6. - 京ヶ野ゴルフ倶楽部に納入 (カート台数 60 台)	
	11.7.22 マルチメディア & VR メッセージふ '99 ～23 ゴルフナビゲーターシステムを出展 (ソフトピアジャパン)	
	11.10.10 ソフトボール大会開催	

history

小野泰男会長の アメリカ情報産業視察

1995年(平成7年)6月24日から7月5日まで、大垣市(当時、小倉満大垣市長)と大垣商工会議所(当時、河合達雄会頭)による「マルチメディア企業の視察調査団」がIT先進国のアメリカを訪問した。視察の主たる目的は、1996年(平成8年)の「ソフトピアジャパン」竣工に向け見聞を深めるというもので、同会議所の代表議員を務めていた小野泰男会長もその一員として参加。ロサンゼルスからバーバンク＝サンフランシスコ＝サンノゼ＝ソルトレイクシティ＝プロボ＝ラスベガス＝ロサンゼルスまで、12日間の行程をこなした。アメリカは当時、すでに東西約6,000kmに及ぶ光ファイバーケーブル網が張り巡らされ、国土全域に情報通信網の基礎が完成。ユタ州プロボ市にあるブリガム・ヤング大学では、慶応義塾大学と通信技術を使った交流が進んでおり、たとえば医療現場ではリアルタイムで相互に状況を共有するなどの取り組みが行われていた。その他、NASA エイムズ技術研究所や南カリフォルニア大学コンピュータ・アニメーション研究所、そしてシリコンバレーに集まるマルチメディア企業各社の視察を通じて得た情報や知見は当社にとっても大きな収穫となり、その後の経営に生かすことができた。

●「大垣市米国先端情報事情等調査団」に参加して

弘光舎社内報「月刊マガジン Charge & Challenge」
(24号～26号/’95.8～’95.10より転載)

1. アメリカでのマルチメディアは今……。

大垣市と大垣商工会議所から11名、報道関係から2名、合計13名よりなる調査団が、6月24日から7月5日までの12日間にわたってアメリカ中西部における先端情報都市といわれる、ロサンゼルス→サンフランシスコ→ソルトレイクシティ→ラスベガスの順番で各都市を視察した。

その視察過程については既に中日新聞、岐阜新聞に概要が報じられているので、出来る限り重複を避け、全般を通して私の感じ方や、あるいは大垣市で建設中のソフトピアジャパンに対し、これからどう取り組んで行くのか、何を模索して行けばよいのか?といった点に触れてみたいと思う。

もうすでに日本には情報都市と名乗りを上げている街は沢山あるわけで、これらの情報産業を中心とする経済ミッションはワシントン州にあるマイクロソフト社、シリコンバレーのシリコン・グラフィックス社とインテル社、ニューヨークのIBM本社、ノースカロライナのAT&T社、オランダにおけるCATV社など、精力的に視察研究しているし、私もその半数以上は既に視察済みで多少の知識を持っているものの、これら米国の一流ベンチャー企業も今回視察の企業も、果たしてどこまでを参考にし、どの様な形で取り組みを進めるかが、日本と米国との産業基盤や育成された土壌の差が違うだけに選択に戸惑いを感じている。

もともと米国で今日のマルチメディア時代を迎えるようになったのは軍需産業からの要請と、莫大な予算の執行によるものであった。

それまではコンピューターの大型化とスピード化の開発、それに取り組む情報処理技術者の育成を進める専門的の大学課程があった程度で、6年前の東西冷戦をむかえて、今米国の情報産業は、

- ①NASAを中心とする宇宙ロケットの開発と衛星による情報産業
 - ②映画からTV時代に入り、VIDEOからエンターテインメント(娯楽)産業
 - ③スーパー情報ハイウェイの進む中でのインターネットのサービス産業
 - ④CATVでのTVショッピング
- などが可成りの経済速度で移行している。

中でもシミュレーションを応用した娯楽産業ではロサンゼルスをはじめラスベガスで広く実用化されており、家族連れの旅行客を楽しませてくれる。しかし、

ことエンターテイメントに関する限りもう既に日本でも企業化されており、ユニバーサル『BACK TO THE FUTURE』程度のシミュレーターならSEGAが日本国内で営業を行っている。

さて、こうした日米間の情報産業のタイムディスタンスが徐々に縮む中で私共が誘致出来るものは何であるか、もう一度よく見極めたいと思う。

アカデミーは情報処理技術者の養成であってもよいし、LANやインターネットは光ファイバーケーブルの設置によって徐々に解決されてゆくだろうし、公共事業である以上、エンターテイメントはそこそこしておくべきであろう。

ただ私共の視察したベンチャー企業の中には、異口同音に「われわれの企業に不足しているものは資金力だけだ」というが、その資金力も日本の企業からすればビックリするほどのものではない筈である。

従って今後、M&Aなどの手を打つことも可能であり、その上での誘致も考えられると思う。



写真1



写真2

宇宙衛星通信や光ファイバーを通じての通信時代に入った以上、紀元2000年までに公営企業として、マルチメディアのテクノロジーが各種のビジネスに波及する様これからの推進に「産・学・官」の三位一体の運営が望まれるのではないか。

2. 視察したベンチャー企業・大学の概要

〈ロサンゼルス〉

①ユニバーサル・スタジオ

旧映画製作のためのスタジオ・オープンスタジオを見学。キングコング、ジョーズ、ET、フランケンシュタインの花嫁など過去有名な映画が製作されたロケ、スタジオの巡回。

オムニマックスシステムによるCGの高精密映像を、画像に合わせた可動席でVR（バーチャルリアリティ）体験できる『BACK TO THE FUTURE』のアトラクション。

②ロサンゼルス市庁舎防災センター（EOC 緊急指令センターともいう）

地震、暴動、洪水など緊急時にCPU（コンピューター）システムを駆使して対応している。ただ建設当時、核兵器による破壊を想定して地下23mに設置したため、予備電源（CVCFを含め）や空調設備はコンボイ級の装置車を5台準備して、地上より地下のEOCに供給するようになっている。

③KCET（公共TV局）

番組素材のデータベースを生かしたCD-ROMとインターネットを活用して教育用ソフトの製作をしている。放送エリア内の25校と専用回線で結び、教師もソフト作りに参加できる。

④GTE社（アナハイムにある民間電話会社）

光ファイバー網による広域のネットワークサービスを行っている他、遠隔地と結んでTV会議システムや遠隔医療情報システムを行っている。この点でスーパー情報ハイウェイ回線の一端が見えてきた。（写真1は光ファイバーケーブルのMDFの様子）また、国内

線飛行機からの無線電話は各座席に設置されており、クレジットカードを通すだけで利用できる。

⑤アイ・ワーク社

エンターテイメントを主力に映像制作で有名な会社。70ミリフィルムによる大型映写システムや360度シアターの製作をしている。ユタ州のエバンス&サザランド社と共同で立体映像のVR体験ができる「ヴァーチャル・アドベンチャー」を開発した。

〈サンノゼ/シリコンバレー〉

①NASA エイムズ技術研究所

モフエット海軍基地に隣接して造られた一大宇宙航空研究機関（アメリカ海軍所属）で、世界最大を誇る風洞実験室（吸入口130m（巾）*80m（高）*長さ500m）を持ち、航空力学の実験の他、フライトシミュレーターなどを行う。（写真2）

風洞実験室の入り口は、750TONのクレーンを用いて実物模型をセットできる。NASAでの使用電力は220,000VOLT 50,000KVAの変電設備を所有している。

②シリコン・グラフィックス社

映像処理用CPUの製造では世界的地位を占め、年間売上率プラス50%を誇る。地元のスタンフォード大学の教授と、6人の学生で創設したサクセスストーリーの代表的なベンチャー企業で三次元画像（THREE DIMENSION）や、VRのデモをビジター室で説明するのと、営業理念の説明を行うだけだが、広大なエリアには8棟の研究室があり、NECや東芝などが、高



写真3

速CPUのチップの生産にあたっている。（写真3）

現在、日本国内においては川崎に一工場、東京・名古屋・大阪など数カ所に営業拠点を持っている。

③ダイブ社

3名のベンチャー企業で、無反射戦闘爆撃機ステルスを開発した技術者でもある。軍事向け訓練システムの開発や、VRによる株式市場システム、パターン認識技術などを研究している。

〈ソルトレイクシティ〉

①エバンス&サザランド社

この会社もVR技術にすぐれ、軍用フライトシミュレーターF16などは、実戦さながらの戦闘機訓練用として、すでに日本にも設置されている。また、シミュレーターの中に「VRハングライダー」があり、各務原市の航空博物館に納入されることが決定している。

この様に軍事関係シミュレーターから、エンターテイメント（娯楽）分野への展開を進め、将来性が有望視されている。会社の構内は100ヘクタールの敷地に5棟の研究所を有し、技術集団は約800名でエンターテイメント、テクノロジーではロサンゼルス社のI-WERK社と共同開発を行っている。

〈プロボア〉

①ブリガム・ヤング大学

1875年創立の私立大学で現在の学生数は約27,000名、全米一を誇っている。キャンパス内にはコンピューターサイエンス研究所が有り充実している。

特に企業との共同研究を重点的に行い、海外との交流も深い。BYUの先駆者として、またホテル経営者として有名なマリオット・センターがキャンパスの中央部にあり、25,000人の収容能力を持つ屋内体育館は素晴らしい施設の一つである。

②プロボア市長、商工会議所会頭との懇談会

グループが招かれたのは、市長、会頭による午餐会であった。プロボア市は人口約9万人でハイテク産業

は大・中・小合わせて300数社と多い。

大垣市との親善交流を図る目的でプレゼンテーションと意見交換が行われた中で、市長は経済交流を基本とした相互理解を深めたい旨要請があった。

【プロボー市】

ジョージ・オー・スチュアート市長

ステーブ・ティ・デンスリー商工会議所会頭

* 会議所会頭の要職は専任制で自己企業から離れ14年間努めているということであった。

* ニュースキン社本社（化粧品、栄養補助食品）がある。

③ノベル社

LANで大きなシェアを持つCPU関連の企業で94年にワープロソフトのトップメーカー「ワード・パーフェクト社」を吸収合併した。顧客管理業務として全米からの話し中電話サポート（サポートの方法がユニーク）が中心になっている。15のオフィスをプロボーに隣接するオレム市に持ち、プロボー市内には6のオフィスを有する。

④ラスベガス

MGMでのEFX立体映像ショーを見学。

世界の情報が24時間飛びかう地球上で、24時間働き続ける都市が不夜城といわれる「ラスベガス」である。私が最初に訪れた昭和51年とは大変な違いで、ホテルもミラージュ、トレジャーアイランド、シーザースパレス、MGMなどその全てがテーマホテルとして建ち並び全米一を誇るショー、夜景、カジノ、ショッピングなどまさに眠りを忘れた街ラスベガスであり、西部劇の迫力とモンテカルロの洗練さを兼ね備えた街ともいえる。

このラスベガスがネバタ州の西の玄関口として、砂漠上の人工都市として繁栄したのは、実はフーバー大統領時代に失業者救済のため作られたミード湖のダム建設でコロラド川の水がこのフーバー・ダムによって、一大オアシスを出現したからといっても過言ではな

い。これらの水は巨大な電力を供給し、周辺の商工業の繁栄に大きく貢献している他、ワイン畑やゴルフコースの灌漑用として或いはミード湖の観光ツアーなどを産み、ロサンゼルスなどの主要都市に対しての飲料水、農業用水としても送られている。

やや観光めいた話になったが、ラスベガスがここにきて大きく飛躍した原因は、すべてのホテルや専門店がカジノが営業できること、18才以下の未成年者も親と同伴であれば入場することが可能で、子供向けの遊び場もあれば、家族でレストランに入ることもできるようになったことであり、その売上はラスベガス全体で1日約3億円といわれており、その20%近くは州へ、5%はホテルへ還元されるというシステムのお陰である。

さて、このラスベガスでは多くのテーマホテル、テーマ劇場があるが実は何れのテアトルにも可成りハイテク機能を備えていて、劇の内容も楽しいが、コンピューターを駆使した3次元方式の映像機器が多く使われている。その一部はすでに東京ディズニーランドにも導入され、今やエンターテイメントにもCPUによるシステム化が相当な速さで進んでいることを示しており、こうした娯楽産業はディズニーをはじめマイクロソフト社とソフトバンク、タイムワーナー社とCNNといった世界の大手情報企業の提携や合併という形で現れはじめた。

今回の調査団はその後ロサンゼルス市に戻り、南カルフォルニア大学へ、すでに県立国際情報科学アカデミーの客員教授に内定しているワインバーグ教授を表敬訪問したが、私は7月2日の夜体調を崩し、ロサンゼルス市のガーフィールド・メディカルセンターICUに入院し7月6日夕刻の退院までの間、高血圧の治療と細部検査を受けた。アメリカに来てまさか入院するとは考えてもいなかったが、ここでも随分勉強する事があったので後日の機会にご報告したい。

さて帰国してみるとあいつも変わらず情報化の報道の波である。例えば、9月8日の日経新聞に「変革・シリコンバレーに学べ」という記事があった。その要旨

は次の様である。

①日本は情報化革命を前にして、規制緩和や将来ビジョンなど社会的整理ができていない。

②シリコンバレーが実践している変革は経済と社会のトータルクオリティ・コミュニケーション構築を目指している。我々もその方法論を学び、新しい経済社会の発展を策定する必要がある。

③国より地域が経済発展の単位として、貿易、産業、社会戦略づくりに取り組むべきである。

要するに21世紀を前にして情報化革命のトレンドは、経済・社会・文化・さらには個人のライフスタイルにまで構造変化をもたらそうとしているが、日本の社会はこれに対して閉塞状態で解決の糸口は無いというものである。このことは岐阜県が進めているソフトピアジャパンに対しても多くの示唆を与えている。

シリコンバレーはスタンフォード大学を核としてソフト、テレコミ、バイオなど時代を先取りするハイテクの世界のセンターとなっているが、そのシリコンバレーにおけるマルチメディア社会は90年代に入って技術とマーケットの相互作用によって生成発展している。それはマルチメディアを毎日使う生活者自体が変革しているという構図に対応した戦略が行われていることを認識しなければならないという。

最近読んだ梶原岐阜知事と孫ソフトバンク社長の対談によると「シリコンバレーからスマートバレー構想への移行」という大学や役所や病院などをネットワークで結ぶスーパー情報ハイウェイが進んでいるという（シリコンバレーの活性化のため各種の実験を行い、トータル・クオリティ・コミュニティ（TQC）の実現のため市民起業家たちが経済とコミュニティの両要素を社会的フレームワークとして創造する）。そしてこれらは全てバリアフリー（障害なきつながり）によってマルチメディアが最大の効果をもたらすものであると結んでいる。

シリコンバレーは米国の中でも数少ない成功事例であるが、ボストン近郊と絶えずライバル意識を深めながら

対照的に取り組んできた結果、シリコンバレーのベンチャー企業は、分散型ネットワークシステムで成功し、一方のボストン側は大企業中央集権型となっており、シリコンバレーが大きくリードする結果となっている。

こうした情報産業界の動きを見てもソフトピアジャパンの将来ビジョンの確立は急務であり、あらゆる産業分野の多彩な（国内外を通じての）新規参入の促進を図ることが最も大切と考える。9月26日の新聞各紙は1996年8月に向けてのソフトピアジャパンセンタービル入居企業として、日立製作所他10社が決定し、岐阜県ではこの10社を「ソフトミックス21・Aグループ」と名付けた。今後の発展段階を見守りたい。

■日程表

月日	都市名	視察概要
6月24日(土)	関西空港発 ロサンゼルス着 (ロサンゼルス泊)	・アルテペーラ社によるオリエンテーションとマルチメディア技術に関する講義
25日(日)	ロサンゼルス (ロサンゼルス泊)	・ユニバーサルスタジオ視察 ・シティウォーク視察
26日(月)	ロサンゼルス (ロサンゼルス泊)	・ロス市エネルギー・通信管理センター視察 ・KCET(公共TV)マルチメディアスタジオ視察 ・GTE(地方電話会社)マルチメディア電話施設視察
27日(火)	ロサンゼルス パーバンク サンフランシスコ (サンノゼ泊)	・アイ・ワークス社視察 ・NASAエイムズ技術センター視察
28日(水)	サンフランシスコ サンノゼ (サンノゼ泊)	・シリコングラフィックス社視察 ・ダイブ社視察 ・マジック・エッジ社視察
29日(木)	ソルトレイクシティ (ソルトレイクシティ泊)	・エバンス & サザランド社視察
30日(金)	プロボー (ソルトレイクシティ泊)	・プロボー市訪問 ・プリガムヤング大学視察 ・市長との会食(プロボーパークホテル) ・ノベル社視察
7月1日(土)	ラスベガス (ラスベガス泊)	・ルクソールホテル等のマルチメディアアトラクションを見学 ・MGMホテルマルチメディアショー見学
2日(日)	ラスベガス ロサンゼルス (ロサンゼルス泊)	自由行動
3日(月)	ロサンゼルス (ロサンゼルス泊)	・USC(南カリフォルニア大学)視察 ・ワインバーグ教授と面談 ・マリーナ・デルレイ・クルーズ
4日(火)	ロサンゼルス発	
5日(水)	関西空港着	

第4章 21世紀への挑戦、そして未来へ

平成12年～平成25年

大正、昭和、そして平成。激動の時代を駆け抜け、2014年（平成26年）に創業100周年を迎えた当社は今後、より幅広い事業フィールドに挑戦し、次の100年を目指す。

会社の動き

- 平成12年 (2000)
- 12.3.21 就業規則の一部改正により完全週休2日制となる
 - 12.3.27 代表取締役会長に小野泰男、社長に小野義明就任
 - 12.4.10 ISO9001取得の為に小野社長によるキックオフ（ISO活動の開始）
 - 12.7. - メナードカントリークラブ 青山コースに納入（台数50台）
 - 12.7.26 マルチメディア&VRメッセージふ2000～27に出展（ソフトピアジャパン）
 - 12.9. - メナードカントリークラブ 西濃コースに納入（台数60台）
 - 12.10. - 名古屋港ゴルフ倶楽部に納入（台数62台）

社会・地域の出来事

- 12.3.25 決戦関ヶ原大垣博開催
- 12.12.1 BSデジタル放送開始

- 平成13年 (2001)
- 13.2.3 ISO9001:1994認証（QMS）審査機関：ビューロベリタス 認証機関：UKAS
 - 13.4. - 松名カントリークラブに納入（台数54台）
 - 13.9.1 産業機器営業部・メディア営業部及び空調管工事部が本社営業部管轄下とする
 - 13.10. - ホームページ開設

- 13.9.11 米国で同時多発テロ

- 平成14年 (2002)
- 14.4. - 三木の里カントリークラブに納入（台数50台）
 - 14.6. - 天城高原ゴルフコースに納入（台数50台）
 - 14.9.18 名古屋支店改築工事が完成
 - 14.12. - チヨダテクノ事業閉鎖の為、一時この事業中断

- 14.5.28 経団連と日経連が統合、日本経済団体連合会が発足
- 14.5.31 サッカーワールドカップ日韓共催で開催
- 14.10. - 小柴昌俊氏、田中耕一氏ノーベル賞受賞

- 平成15年 (2003)
- 15.3.27 ISO9001:2008へ移行
 - 15.5.15 小野会長が岐阜県功労者賞を受賞
 - 15.5.30 ISO14001（EMS）のキックオフ

- 15.3. - 感染症SARS世界的に流行
- 15.4.1 日本郵政公社発足
- 15.9.26 十勝沖地震

- 平成16年 (2004)
- 16.3.10 小野会長の傘寿を祝う会を開催
 - 16.5.19 ISO14001（EMS）認証

- 16.4. - 大垣芭蕉生誕300年祭開催 大垣環状線全通開通
- 16.12.26 スマトラ沖地震



「マルチメディア&VRメッセージふ 2000」において大勢の来場者で賑わった当社ブース



小野会長の県教育功労者表彰を祝う会



小野会長の傘寿を祝う会

history

GPSを活用した マーシャルナビについて

1998年（平成10年）3月、当社は新規事業の一環として、ゴルフ場内のカート運行をクラブハウスで集中管理できる、GPSを活用したゴルフナビゲーションシステムの代理店営業を開始。2002年（平成14年）までに7セットの販売実績を挙げた。2006年（平成18年）9月、新たに株式会社テクノクラフトと契約、マーシャルナビ（テクノクラフトの商品名）の販売を始めた。2014年（平成26年）までに、当社を通じてマーシャルナビを導入されたのは名古屋広幡ゴルフコース様、メナードカントリークラブ青山コース様、メナードカントリークラブ西濃コース様、養老カントリークラブ様。中でも養老カントリークラブ様はいち早く地震速報システムを搭載したタイプを導入され（東海地方初、全国で2番目）、話題となった。

以下にマーシャルナビの概要をご説明させていただきます。

- 基地局（一般にはマスター室）で全カートの位置を一括把握し、カートのスムーズな運行管理を促進。また、プレーヤーに対し、雷や地震情報を速やかに通達するなど、安全性の向上を図ることもできる。
- 各カートに10.4インチの液晶ナビが設置されており、適宜的確な情報が提供される。内容は以下の通り。
 - ・現在地からグリーンまでのコース案内（写真またはビデオ）と残り距離

- ・各プレーヤーのスコア（入力が必要。コンペの際はプレー中、参加者同士でスコアを見ることができ。プレー終了後は即スコア集計が可能）

- ・雷情報、緊急地震速報

マーシャルナビは、落雷時に各カートに警報や適切な避難場所を連絡することができる他、気象庁から緊急地震速報が発表されると、株式会社フランクリン・ジャパン（落雷・地震対策の専門企業）を介して情報が瞬時に届く。ゴルフ場の緊急マニュアルに従った迅速な避難が叶うとあって、重宝されている。



セルフでも快適かつ戦略的なプレーができる

会社の動き

社会・地域の出来事

平成 17 年 (2005)	17. 8. 20 内部監査員（環境）養成コース開催 17. 8. 25 小野会長、岐阜県教育功労者表彰を受賞 17.12. - 太平洋精工(株)、上海工場施工 17.12. - 携帯型ゴルフ用 GPS 機器の取扱開始	17. 2. 16 京都議定書発効 17. 2. - 大垣消防組合消防本部・中消防署の新庁舎完成 17. 2. 17 中部国際空港開港 17. 3. 25 愛知万博開幕
平成 18 年 (2006)	18. 9. - ゴルフナビのメーカーテクノクラフトと新規契約、事業再開	18. 3. 3 第1回ワールド・ベースボール・クラシックで日本優勝
平成 19 年 (2007)		19. 5. 7 日本の自動車生産台数世界一になる
平成 20 年 (2008)		20. 1. 21 世界同時株安、日本株 535 円安 20. 8. 24 北京オリンピック開幕
平成 21 年 (2009)		21. 5. - 新型インフルエンザ確認される
平成 22 年 (2010)	22. 3. - 名古屋広幡ゴルフコースに納入(台数 60 台) 22. 4. - メナードカントリークラブ青山コースに納入(台数 50 台) 22. 12. 4 審査機関変更、複合審査の実施～ 5 (審査機関 VBJC → ASR)	22. 5. 1 上海万博開幕
平成 23 年 (2011)	23. 3. 4 大垣城改修工事完了(電気設備施工)	23. 3. 11 東日本大震災発生、原子力発電所事故 23. 3. 12 九州新幹線全線開通 23. 7. 24 地デジ完全移行
平成 24 年 (2012)	24. 4. - メナードカントリークラブ西濃コースに納入(台数 50 台) 24.12.12 審査機関変更による更新審査実施～ 14 (ASR →ムーディー)	24. 6. 26 消費税増税法案衆議院可決 24. 9. 29 ぎふ清流国体開幕 24.10. 8 山中伸弥教授ノーベル生理学・医学賞受賞 24.12. 5 天皇陛下、皇后陛下大垣御幸
平成 25 年 (2013)	25. 8. - 養老カントリークラブに納入(台数 50 台)	

history

太平洋精工(株) 上海工場の施工

2005 年(平成 17 年)、太平洋精工株式会社からご用命いただき、上海工場の電気設備工事を施工した。受電設備は 1,000kW、受電電圧 10,000V、内部配線も動力設備が 440V、電灯設備が 220V と、日本の電圧と

は定格が異なっていたが、松岡一雄専務工事部長の指揮のもと、納期(同年 12 月・工期約 1 年)通り工事を完了させた。

現地通訳を務めていただいた十六銀行上海駐在の揚雪梅さんをはじめ、お世話になった関係者各位にこの場をお借りしてお礼を申し上げたい。

history

ISO活動

当社は、国際規格である品質マネジメントシステム「ISO9001」を 2001 年(平成 13 年)2 月に、環境マネジメントシステム「ISO14001」を 2004 年(平成 16 年)4 月にそれぞれ認証取得し、経営に役立ててきた。

1、品質マネジメントシステム活動 (ISO9001)

2000 年(平成 12 年)4 月 10 日、小野義明社長のキックオフ宣言からスタート。品質方針の制定、マニュアルの制定、記録の整備等、審査受審の準備を進め、全員参加の活動を実施し、翌 2001 年(平成 13 年)2 月に同システムの認証を取得することができた。

●品質マネジメントシステムの認証取得は建設省(当時)が推進していたもので、その目的は、当社の品質保証力を更に高めて他社との差別化を図り、経営基盤を強化することにあった。

●品質方針は、小野泰男会長により「適確な情報、素早い対応」と制定。行動指針は、小野義明社長により「社員全員の熱意と素早い対応で良い設備工事を提供し、顧客の満足を高め信頼を獲得する」と制定した。毎週月曜の朝礼等により、従業員に周知させ、同システムの理解と定着、維持、改善に努めている。

【品質マネジメントシステムの活動経過】

・2000 年(平成 12 年)4 月…小野義明社長によるキックオフ、活動の開始

【品質方針】

1. 社員全員の熱意と素早い対応で良い設備工事を提供し、顧客の満足を高め信頼を獲得する。
2. 検証と見直しを通じて要求事項への適合と品質マネジメントシステムの有効性について継続的な改善を推進する。

2002 年 12 月 10 日
株式会社弘光舎 代表取締役社長 小野義明



認証登録証明書(環境)



認証登録証明書(品質)

- ・品質方針の制定、マニュアル・手順書の制定、社員教育の実施、記録整備、ISO 規格に沿った全員参加型の活動の実施
- ・2001 年(平成 13 年)1 月受審、2001 年 2 月認証取得(1996 年版)
- ・2003 年(平成 15 年)2 月、2000 年版に移行
- ・2010 年(平成 22 年)11 月、2008 年版に移行

2、環境マネジメントシステム活動 (ISO14001)

品質マネジメントシステムの認証取得後、環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証取得を目指して活動を開始した。2003 年(平成 15 年)6 月 10 日にキックオフし、2004 年(平成 16 年)3 月に受審。同年 4 月に認証を取得することができた。

●キックオフでは、小野義明社長が環境マネジメントシステム認証取得の目的を次の様に発表した(以下、要旨)。

「我々は 20 世紀を通して豊かな生活を送ってきたが、それを支えたのは大量生産・大量消費・大量廃棄システムであった。産業発展の初期段階では自然の治癒力が発揮されていたが、生産活動の拡大と共に問題が出現。その最たるものが、昭和 40 年代に発生した水俣病や四日市ぜんそくをはじめとする公害である。そして廃棄物、騒音、振動、ダイオキシン、酸性雨といった地域の環境問題は地球温暖化、オゾ



小野社長によるキックオフ

ン層の破壊、天然資源の枯渇など地球規模の環境問題に発展し、さらに環境ホルモン、生活の質の

低下という新たな局面へと進んだ。このままでは、未来を担う子どもたちに美しい豊かな自然を残すことが出来ない。一方、我々企業は持続的な発展を遂げていかなければならない。企業と環境が難しいバランスを取りながら共生していく活動は今後ますます求められるであろう。すなわち当社は、環境に配慮した設備工事を推進していかなければならない。

ISO14001の認証を取得することにより、外部から環境に配慮した企業として認められるが、メリットはそればかりではない。認証取得が公共事業・民間事業の入札・受注の条件となる場合もあり、

ビジネスチャンスにつながるものである」。

- ISO14001の要求事項に沿って文書管理、内部監査、マネジメントレビュー等、さまざまな運用管理を行い、継続的改善を実施し、経営に役立つ環境活動を展開してきた。

【環境マネジメントシステムの活動経過】

- ・ 2003年(平成15年)6月…小野義明社長によるキックオフ、活動の開始。環境方針の制定、マニュアル・手順書の制定、社員教育の実施、記録の整備、全員参加型の環境マネジメント活動の実施
- ・ 2004年(平成16年)3月受審、同年4月認証取得(1995年版)

- ・ 2006年(平成18年)4月、2004年版に移行、今日に至る



審査風景

【環境方針】

基本理念

当社は、環境問題を経営の最重要課題の一項目として位置づけ、積極的に地球環境の保全と循環型社会形成に貢献します。また、事業活動の全ての段階において環境に配慮した設備工事を行うだけでなく、オフィス活動に対しても、環境を重視した活動に努めます。

基本方針

1. 当社は、電気工事、空調・給排水衛生工事、計装工事、電気通信工事等を通じて地域の皆様に信頼と満足を頂けるよう、事業活動を進めています。これら事業活動の全ての段階において次の項目に重点的に取り組みます。
 - 省資源・省エネルギーの推進
 - 廃棄物の削減、適切な処理
 - 車両から排出される排気ガスによる環境汚染予防
 - 環境に配慮した製品の販売及び設備工事の実施
2. 環境方針、環境目的・目標を立て、その実施にあたっては、内部監査、マネジメントレビューを行います。
3. 環境マネジメントシステムは、継続的に改善を図り、汚染予防に努めます。
4. 環境に関する法規制及び協定等を順守すると共に関連する社会的要求を尊重します。
5. 環境方針は、全社員及び当社のために働く全ての人に周知徹底すると共に、一般の人が入手可能なものとしします。

2011年8月30日
株式会社弘光舎 代表取締役社長 小野義明



審査風景



審査風景



外部講師による社員教育

あとがきに代えて ～創立 100 年の感謝～

弊社創立 100 周年を迎えるにあたり、記念事業の一環として制作を進めてまいりました社史「弘光舎 100 年史」と故小野泰男会長の自叙伝が、このほど無事発刊の運びとなりましたことを喜ばしく存じます。

編纂作業は、弊社会長であった小野泰男が主導となって進めておりましたが、校了間近というところで体調を崩し、平成 26 年 4 月 29 日、志半ばで永眠いたしました。

過去発刊しました創立 60 年史、75 年史に続く今回の 100 周年記念誌には、故会長の特別な思いが込められております。会社の足跡、施工実績をできるだけ詳しく記録に留めることはもちろん、座談会の実施を通じて、諸先輩方の仕事にまつわるさまざまなエピソードをご紹介させていただくことにも努めました。これらにより、あらためて先人のご労苦、ご尽力にふれるとともに、会社の存在意義を強く感じさせられました。その歴史、志を受け継ぐ者として、諸先輩方には深く感謝いたしますとともに、心より敬意を表します。

編集方針としては、多くの写真を掲載し、読みやすさと親しみやすさを心がけました。正確性にも細心の注意を払いましたが、不備な点、不十分な点があることも考えられます。これらにつきましては、今後の叱正を請いたいと存じます。

末筆になりましたが、小史の編纂にあたり、貴重な資料等をご提供いただきました社内外の皆様方、企画から編集、印刷、製本まで全般にわたりご担当いただきましたサンメッセ株式会社の皆様方をはじめ、関係各位のご協力とご支援に厚く御礼申し上げます。

平成 26 年 7 月吉日

代表取締役社長

小野 義明

Electric
弘光舎 100 年の歩み
100 Years of Power, Beauty and Soul
Dreams

2014 年 7 月発行

発行 株式会社 弘光舎
〒 503-0917 大垣市神田町 1 丁目 1 番地
印刷 サンメッセ株式会社